

取組の柱④：「海」から「空」へ広がる安全保障・安全利用の取組

事例⑤⑩：「空」の安全利用の推進

1. 基本的な考え方

●開かれ安定した海洋及び既存の国際的なルールに基づく空の利用は、海洋国家である我が国の平和と繁栄の基礎であり、海洋だけではなく、空の安全・安定的な利用の確保や上空からの海洋の状況把握も重要。

●ロシアのウクライナ侵略により国際秩序を形作るルールの根幹が揺らぐ中、海洋安全保障・空の利用の安定のため、これについて認識を共有する諸外国との共同訓練・演習、装備・技術協力、能力構築支援、情報共有等の取組を強化し、我が国の意思と能力を積極的かつ目に見える形で示す必要。

●航空領域で何が起きているのか把握しなければ、空の利用がルールに基づいているか否かも把握できない。このため、航空領域で何が起きているのかを把握すること（以下「空の状況把握」という）は、国際的なルールに基づく空の利用のために不可欠。また、哨戒機の活動も、航空領域の安全が前提となるなど、空の状況把握は、海洋安全保障の基盤ともなりうるもの。

→我が国のみならず地域全体で空の状況把握を推進することは、地域における国際的なルールに基づく空の利用の確立に資する

2. 具体的な取組

●パートナー国の空の状況把握に係る能力向上を後押し

（例）フィリピンへの警戒管制レーダーの移転及びそれに伴うフィリピン空軍の要員への空自によるレーダーに関する教育

●地域全体で空の状況把握を高める必要があるとの考えの普及や空の状況把握に係る知見等の共有

（例）警戒監視に係る専門家交流、空軍種間ハイレベル／実務者交流

地域の空の状況把握
(FOIPを下支え)

パートナー国の空の状況
把握に係る能力向上を後
押し

・地域全体で空の状況把握を高める必要性を普及
・空の状況把握に係る知見等の共有



警戒管制レーダー



警戒監視に係る専門家交流



フィリピン空軍の要員への教育